1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	43.7	36.7	43.3	47.7	44.7	49.3
2年	前年度結果 偏差値平均	49.9	52.9	49	52.7	48.6	50.6
	本年度結果 偏差値平均	48.8	48.5	45.2	46.8	51	48
3年	前年度結果 偏差値平均	49.9	50.4	47.6	52.1	52.4	50.5
	本年度結果 偏差値平均	49.1	53.4	50.2	52.1	51	51.2
全体	前年度結果 偏差値平均	51.2	51.2	48.3	52.3	50.8	50.7
	本年度結果 偏差値平均	48.2	48.9	47	49.1	50.1	48.7

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、1年生は目的に応じて話の内容をとらえること(全国比63)、2年生は要点をとらえ内容を解釈すること(全国比80)、3年生は話の内容をとらえること(全国比95)に課題が見られる。 ●社会では、1年生は地理的分野(全国比101)、2年生は原始から古代の日本(全国比91)、3年生は近世の日本(全国比80)に課題が見られる。 ●数学では、1年生は起こりうる場合の数(全国比70)、2年生は方程式(全国比73)、3年生は場合の数を基にした確率(全国比72)に課題が見られる。 ●理科では、1年生は燃焼の仕組み(全国比88)、2年生は、光と音(全国比91)、3年生は物質の成り立ち(全国比83)に課題が見られる。 ●英語では、1年生は話すこと(全国比78)、2年生では、聞くこと(全国比97)、3年生では読むこと(全国比96)に課題が見られる。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、叙述の仕方を確かめて文章を整えること(37.5%)、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして書くこと(50%)に課題が見られる。 ●数学では、空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶこと(12.5%)、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること(25.0%)に課題が見られる。 ●英語では、英文を読み、必要な情報を読み取ること(0%)、社会的な話題に関して読んだことについて考えとその理由を書くこと(12.5%)に課題が見られる。また「話すこと」は無解答はいなかったものの、正答率が非常に低かった。
--	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較して、本年度の学力では、全教科総合偏差値が2.9上回っている。学習意欲も、昨年と比較して全体で0.6上回っている。 〈本年度重点目標〉 ・偏差値50を上回っている教科は、1年生2教科、2年生3教科、3年生4教科である。今後は、全学年の全教科で偏差値50を上回ることを重点目標とする。 	<p>①全国学力学習状況調査結果を基にした分析及び校内研修実施。</p> <p>②実力テスト対策の実施。</p> <p>③試験問題の改善と授業改善の連動。</p> <p>④令和5年度各種調査結果の成果と課題の共有及び令和6年度目標数値設定。</p> <p>⑤授業改善に向けて、各教科の「見方・考え方」を授業内で提示する機会を持ち、「見方・考え方」を踏まえた振り返りを書く。</p>	<p>①8月</p> <p>②8月、1月</p> <p>③通年、10月、12月、2月</p> <p>④3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定着度診断テストの5段階評定1と2の割合20%以下。 ・同一集団の年度初めNRT、実力テスト平均値前年比以上。
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○昨年度と比較して、本年度の一次支援の割合は、3.2%増加しており、友人関係の安定がうかがえる。引き続き、学級集団内の肯定的人間関係づくりを継続する。</p>	<p>①QU分析による実態把握と改善計画立案。</p> <p>②道徳を中心とした、肯定的人間関係の育成の継続。</p> <p>③経営会議において、各学級実態と改善計画の共有。</p>	<p>①6月、12月</p> <p>②通年</p> <p>③学期2回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・QU2回目「クラスの中にとほっとしたり明るい気分になる」の数値(肯定的評価前年度以上)

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	74 (106)	56 (114)	38 (88)
本年度結果 (対県比)	56 (96)	49 (94)	/

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【学力調査について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、要点をとらえ内容を解釈すること(全国比1年生59、3年生77)、文章を整え感想や意見を伝え合うこと(全国比2年生74)に課題が見られる。 ●社会では、1年生は地理的分野(全国比53)、2年生は原始から古代の日本(全国比89)、3年生は近代の日本(全国比94)に課題が見られる。 ●数学では、1年生は式(全国比37)や立体図形(全国比52)、2年生は文字と式(全国比73)や比例と反比例(全国比68)、3年生は四分位範囲や箱ひげ図(全国比82)に課題がみられる。 ●理科では、1年生は燃焼の仕組み(全国比73)、2年生は、生物の観察(全国比61)、3年生は動物の体のつくりと働き(全国比93)に課題が見られる。 ●英語では、1年生は読むこと(全国比71)、2年生では、聞くこと(全国比91)、3年生では聞くこと(全国比92)に課題がみられる。 <p>(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること(33.3%)、表現の効果を考え描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること(33.3%)に課題が見られた。 ●数学では、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること(11.1%)、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること(11.1%)に課題が見られた。

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組上記課題を踏まえたもの	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【学力向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の確実な定着 ・情報と情報との関連付け ・まとまった文章を書くこと 	<p>①全学年全教科等でのR80の実施(必須)。</p> <p>②全国学力学習状況調査結果を基にした分析及び校内研修</p> <p>③試験問題の改善と授業改善の連動。</p> <p>④放課後のドリル学習(1年生:数学 2年生:理科・社会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○年度終わり定着度診断テスト(1月)の5段階評定1と2の割合30%以下。 ○同一集団の年度終わり定着度診断テストが年度初め定着度診断テストの平均値比以上。 ○定期試験において知識・技能と思考・判断・表現の達成度をそれぞれ5割以上を目指す。 ○単元テストでの見取り(知・技 7割達成) ○四則計算の100問を1分30秒以内にできるようにする。
<p>【学級・学習集団づくりについて】□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律・学習環境の整備 ・支持的風土の醸成 ・安心できる居場所づくり 	<p>①経営会議において、各学級実態と改善計画の共有。</p> <p>②正しい号令や聞く姿勢の定着と机上、ロッカー整理の指導。</p> <p>③道徳を中心とした、肯定的人間関係の育成の継続。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○QU2回目「学習意欲」の数値(肯定的評価1回目以上) ○QU2回目「クラスの中にとほっとしたり明るい気分になる」の数値(肯定的評価1回目以上)